

親鸞における虚空に関する一考察

——「行文類」一乗海釈の『往生論註』引文をめぐって——

河 野 悠 玄

はじめに

親鸞撰述の『教行証文類』は、「文類」という形式上、經論釈の引用が大半を占める。その引用態度は、原文に正確で、取意によつて独自の読解を示すという方法は採らない。そのため読解に際しては、私釈部分はもちろんのこと、引文に込められた意図にも細心の注意を払う必要がある。

本稿では、「行文類」一乗海釈における曇鸞撰述の『往生論註』不虛作住持功德成就の引文の考察を行う。『往生論註』に「虚作之相」とあるのを、親鸞は「虚空之相」として引用する⁽¹⁾。従来は親鸞の単なる写誤と見なされてきたが、その問題点を指摘し、単なる写誤とは見ない解釈を提示したい。

一 テキストの確認

当該の『往生論註』原文、ならびに親鸞の引用を示す。（なお、『往生論註』に沿つて英数字を付して、対照の便宜を図つた。）

『往生論註』卷下、觀察体相「不虛作住持功德成就」

①何者莊嚴不虛作住持功德成就、偈言「觀仏本願力遇無空過者能令速滿足功德大宝海」故。「不虛作住持功德成就」者、蓋是阿彌陀如來本願力也。②今當略示虚作之相不_レ能住持_一、用顯_中彼不虛作住持之義_上。③人有_下輟_レ餐養_レ士、或覺起_二舟中_一、積_レ金盈_レ庫而不_レ免_二餓死_一。如_レ斯之事觸_レ目皆是。得_レ非_レ作_レ得、在_レ非_レ守_レ在。皆由_二虚妄業作_一不_レ能住持_一也。④所_レ言不虛作住持者、依_二本法藏菩薩四十八願、今日阿彌陀如來自在神力_一。願以成_レ力、力以就_レ願。願不_二徒然_一、力不_二虚設_一。力願相符畢竟不_レ差故曰_二成就_一。

（『聖典全』一・五〇九—五一〇頁。傍線引用者、以下同。）

「行文類」一乗海釈

『淨土論』曰、「①何者莊嚴不虛作住持功德成就、偈言_下觀_二仏本願力_一、遇無_二空過者_一、能令_二速滿_一足功德大宝海」故_上。不虛作住持功德成就者、蓋是阿彌陀如來本願力也。②今當略示_二虚空之相不_レ能住持_一、用顯_中彼不虛作住持之義_上。④所_レ言不虛作住持者、依_二本法藏菩薩四十八願、今日阿彌陀如來自在神力_一。願以成_レ力、力以就_レ願。願不_二徒然_一、力不_二虚設_一。力願相符畢竟不_レ差。故曰_二成就_一。」

（『聖典全』二・五六頁）

「真仏土文類」

又云、「①何者莊嚴不虛作住持功德成就、偈言_下觀_二仏本願力_一、遇無_三空過者_二能令_三速滿_二足功德大宝海_一故_上。不虛作住持功德成就者、蓋是阿弥陀如来本願力也。_{至乃}④所_レ言不虛作住持者、依_二本法藏菩薩四十八願_一、今日阿弥陀如来自在神力。願以成_レ力、力以就_レ願。願不_レ徒然、力不_二虛設_一。力願相府、畢竟不_レ差。故曰_二成就_一。」_{出抄}

〔聖典全〕二・一七二—一七三頁

二 写誤とすることへの疑義

右記のように、当該の『往生論註』は「真仏土文類」にも引用されるが、その引用形態に一乗海釈と差異があることがわかる。すなわち「真仏土文類」は②・③を省略するが、一乗海釈は③のみを省略し、②を引用している。

②は、今から虚作の相が住持不可能であることを略示すると述べているように、③の例示を導く文章である。すなわち②と③はセットであり、いずれか一方を欠くと意味が通らなくなる。それゆえ「真仏土文類」のように②・③両方を省略すれば文意が通じるが、一乗海釈のように②を引用して③を省略すると、②で今から略示すると予告する虚作の相の例示が欠けて、引文中における②の文章のつながりや意味づけが不明瞭になる。しかし「真仏土文類」では省略されているため、一乗海釈では親鸞に何らかの意図があつて敢えて引用した文章と考えられる。そしてこの②のなかに「虚空之相」の

語が出てくるのである。意図して引用したと考えられる短い文章に写誤が生じるのには疑問が残る。むしろ、意味づけが不明瞭な②の文章を読解する鍵として「虚空之相」への改変があるのではないだろうか。⁽³⁾

三 「虚空之相」への改変の背景

「虚作之相」から「虚空之相」への改変が写誤による偶然ではないとするには、改変がなされるに至った親鸞の思想的背景を指摘する必要がある。そこで注目したいのが『尊号真像銘文』の『浄土論』釈である。ここで親鸞は『浄土論』の偈頌である「世尊我一心」以下の十二句と「観仏本願力」以下の四句を、以下のように註釈する。

「観彼世界相勝過三界道」といふは、かの安樂世界をみそなはずに、ほとりきわなきこと虚空のごとし、ひろくおほきなること虚空のごとしとたとへたるなり。「観仏本願力遇無空過者」といふは、如来の本願力をみそなわずに、願力を信するひとは、むなしくこゝにとまらずと也。「能令速満足功德大宝海」といふは、「能」はよしといふ、「令」はせしむといふ、「速」はすみやかにとしといふ。よく本願力を信樂する人は、すみやかにとく功德の大宝海を信する人のそのみに満足せしむる也。如来の功德のきわなくひろくおほきに_{へだてなきこと}を、大海のみづのへだてなくみちみてるがごとしとたとへたてまつるなり。

〔聖典全〕二・六二〇—六二一頁上

親鸞は「観彼世界相、勝過三界道」の句を「究竟如虚空、広

大無辺際」の量功德成就にもとづいて「ほとりきわなきこと虚空のごとし、ひろくおほきなること虚空のごとし」と註釈する。ここでは虚空に無辺際（ほとりきわなきこと）と広大（ひろくおほきなること）の二義を見ていたことがわかる。さらに、不虛作住持功德成就を明かす「親仏本願力」以下の句も、「如来の功德のきわなくひろくおほきに、へだてなきこと」と広大・無辺際の義によって註釈している。

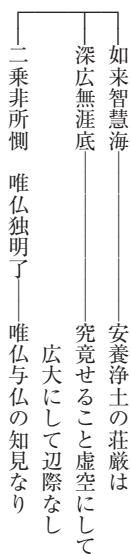
ここに、不虛作住持功德成就の句を、『浄土論』の偈頌本来の位置関係としては離れている量功德成就の句（究竟如虚空、広大無辺際）にもとづいて註釈するという親鸞の特色ある解釈が確認される。これは、親鸞が量功德成就と不虛作住持功德成就を関連付けて把握していたことによると考えられる。かかる思想背景を考慮すると、一乗海釈の不虛作住持功德成就の引文のなかに「虚空之相」の語が用いられたのも偶然によるものではないといえよう。⁽⁴⁾

いま確認した量功德成就と不虛作住持功德成就との連関は、『高僧和讃』において、

安養浄土の莊嚴は 唯仏与仏の知見なり
究竟せること虚空にして 広大にして辺際なし
本願力にあひぬれば むなくすぐるひとぞなき
功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし

『聖典全』二・四〇九—四一〇頁

とつづけて和讃されていることからも見出せる。また、前の清浄功德成就・量功德成就の和讃では、『浄土論』の「勝過三界道」に該当する部分を、親鸞は「唯仏与仏の知見なり」と詠み換えている。この詠み換えによって当該の和讃と、一乗海釈の不虛作住持功德成就の直前に引用される『無量寿経』往観偈との類似性が次のように際立つことになる。



以上を整理すると、

- ・「尊号真像銘文」における量功德成就と不虛作住持功德成就の註釈
- ・「高僧和讃」における清浄功德成就・量功德成就と不虛作住持功德成就の和讃
- ・「行文類」一乗海釈における『無量寿経』往観偈と不虛作住持功德成就の引文

の三箇所に関連した関係性を見出すことができる。

小結

本稿では、親鸞における虚空について、特に一乗海釈における『往生論註』不虛作住持功德成就の引文中の「虚空之

相」の語に着目して、考察を行った。従来は単なる写誤とされてきたが、その引用形態が「真仏土文類」と異なることから、親鸞に何らかの意図があったと考えられた。その上で、親鸞が量功德成就と不虛作住持功德成就とを関連付けて把握していたことを指摘し、「虛作之相」を「虚空之相」に改変するに至った思想背景を提示した。

最後に、残された問題、つまり親鸞が「真仏土文類」に引用せず、一乗海釈で引用した「今当略示^二虚空之相不^レ能^二住持^一、用顯^二彼不虛作住持之義^一」の文章の解釈について仮説を提示する。「虚空之相」への改変が読解の鍵となるならば、虚空を住持できないのは誰であって、具体的にどのような状況を指すのか。

直前の『無量寿經』往觀偈を考慮すると、虚空を住持できないというのは、如来の智慧海（大行の徳）を声聞・菩薩の二乗が測り知ることができないという様相（「二乗非所測、唯仏独明了」）を意味するのではないだろうか。より具体的にいえば、直後に引用される『往生論註』衆功德成就が、如来の智慧海には二乗も自力雑善も入り込む余地がないと示していることから、大行の万徳や阿弥陀仏の本願力は、行者が自力によって把握するものではないことを示しているのではない。詳細な検討は今後の課題とし、現段階での見通しを提示するに留めたい。

（１）諸本について、坂東本・西本願寺本・高田本は「虚空之相」、『往生論註』親鸞加點本は「虚作之相」となっている。

（２）管見の限り、「虚空之相」を写誤とせずに親鸞の意図を見出そうとするのは、岡亮二「一九九八」が唯一の例である。ただし岡氏は、写誤という解釈を採らない理由を示していない。

（３）親鸞における虚空の他の用例は、十九箇所所計三十三回を数え、仏の本願力に関わるものが多い。ここに虚空の語が出ることは、親鸞の用例として決して不自然ではないといえる。

（４）たとえ写誤であった場合も、理由なき写誤ではなく、親鸞が量功德成就と不虛作住持功德成就とを関連付けて把握していたことが原因で生じた写誤であろうと推測できる。

〈略号〉

『聖典全』『浄土真宗聖典全書』（全六巻、浄土真宗本願寺派総合研究所編、本願寺出版社、二〇一〇—二〇一八）

〈参考文献〉

岡亮二『教行信証口述五〇講』第一巻、教育新潮社、一九九八

〈キーワード〉 親鸞、虚空、一乗海釈、往生論註

（浄土真宗本願寺派宗学院研究生）